

先輩ママと助産師と小児科医が創る 乳幼児親子の居場所事業報告書

『はんもっくのおうち』開始後1年4か月



NPO 法人はんもっく

代表 福井聖子

目次

| | |
|--|-----------|
| はじめに | 1 |
| I. 事業概要 | |
| 事業の目的・方法・期間・場所 | 2 |
| 事業の結果 | |
| 柱立て1：街の実家事業 | 3 |
| 柱立て2：赤ちゃん広場リンクル | 6 |
| 柱立て3：支援者研修 | 7 |
| 柱立て4：高校生との交流授業 | 9 |
| II. おうち参加者について | 10 |
| III. その他 産後～乳児期の子育て支援に関する活動報告 | 13 |
| IV. さらに課題が見えてきた | |
| 親や家庭の課題 | 16 |
| 子育て支援の課題 | 18 |
| V. 子どもを育てるために確認したい大事なこと | 20 |
| VI. 今年度目標にしていた達成課題と成果物 | 22 |
| VII. 次年度に向けて | 24 |
| おわりに | 27 |

はじめに

1～2歳児の子どもの運動機能や対人関係の発達には、地域での遊び場や家族以外の人との関わりが重要であり、当団体は未就園児の親子を対象に地域での親子遊びを中心とした子育て支援のボランティア活動を行ってきた。1996年発足当初は任意団体として保護者の自主活動である子育てサークルの支援を行い、2013年法人化以後は保護者が気軽に集えるように地域おやこクラブを開催してきた。しかし、対面の人との出会いに抵抗感を持つ母親が増加し、SNSやネット検索が普及、0～1歳児でも働く母親が増加して、地域で親同士つながることの必要性が理解されにくくなり、子育てサークルは少なく、地域おやこクラブや赤ちゃん広場の参加者は減少した。一方、母親の就労により孤立や育児の抱え込みは解消されるが、「親は入園までの衣食住排泄の世話係」といった風潮も感じられるようになり、お金と手間がかかり結果の見えない子育てへの評価は過去より低くなった印象がある。産後うつが増加や妊産婦の死因第1位が自殺である背景には、子育てが楽しく誇りを持てる状況ではない現状があると考えられる。

さらにコロナ禍により、妊娠中から人との出会いを避け、産後は家族以外の人と出会う機会もなく、親も子もそれ以前にあった学びの機会が著減した。子どもの発達面においては、コロナ禍以前から1～2歳児の発達が過去の標準より遅いという指摘があったが、感染対策によって室内で大人とマンツーマンで過ごす時間が長くなり、体験不足による心身の遅れが心配される。

令和2年度から、WAM助成を受け、当団体と助産師がいっしょに、0～1歳児親子への子育て支援事業を開始した。令和3年度は、事業内容を充実し、他の機関にも働きかけて発展させる目的で活動を進めた。新型コロナウイルス感染症は第4波から第6波へと感染者数が増加し、子どもの感染も増えるなか参加を募ることができず参加人数は増えなかったが、少人数の参加者から考えさせられることは多く、支援方法や参加呼びかけの方法の見直しを行った。また、箕面市の保健師が健診などで課題のある親子に呼びかけていっしょにオープンスペースに参加され、その後継続して親子だけで参加されるなど、行政との連携から地域活動へという流れの良さを感じることができた。

核となる事業運営ができたことから、近隣豊中市の赤ちゃん訪問支援員研修の講師依頼があり、産後の家庭状況調査に産科施設の協力が得られ、社会福祉協議会の協力で研修会を開催できたことなど、箕面市内における地域連携は広がった。

産後の支援については多くの課題がある。今ある地域の支援の資源を有効活用するとともに、不足している部分を検討し、声を上げることで、今後の子育て環境を少しでも良いものとしたい。当団体の活動が、起爆剤として寄与できるように、今年度を振り返ってみたい。

I. 事業概要

【事業の目的】

1. 0～1歳の子育ての重要性の理解を図り、実践的体験の場と機会を創る
2. 子育てを楽しみながら手間暇をかける創造的な営みとして、誇りを持つことができるように支援する
3. 産後ケア事業、乳幼児期の子育て支援をより良い形にするための実践モデルを創る

【事業の方法】

箕面市内の戸建住宅「はんもっくのおうち」を支援の場として「家庭的環境」を作り、産後の親子の支援を行った。

時間枠や対象を限定しない無料オープンスペースと有料の子育て講座や相談などを提供し、ネットなどからの簡単な予約のみで参加可能とした。助産師は週3日常駐、小児科医の相談は適宜行った。オンラインテーマトークを月3回開催した。スタッフは、研修を行い、アルバイト待遇と有償ボランティアとした。

おうち以外に、子育て広場リンクルを市内2箇所ですべて各月1回ずつ開催した。0～1歳児の関わり方や保護者への関わり方について、スタッフに研修を行った。大阪府立箕面東高校において乳幼児の親子と高校生の触れ合い授業も計画していたが、緊急事態宣言や高校生の感染などをを受け、年間3回の開催に留まった。



【事業の期間と場所】

1. 産前・産後から未就園児の親子の居場所：街の実家事業

令和3年4月6日～8月6日、8月17日～12月24日、令和4年1月11日～3月25日
この期間の火～金曜 10時～15時 計 193日 776時間
はんもっくのおうち（箕面市今宮3丁目28-1）で開催。

2. 赤ちゃん広場 リンクル

コロナ感染対策緊急事態宣言などによる公共施設閉鎖を受け、4月～6月は中止

令和3年7月・9月～令和4年3月の期間 月2回計 14回

箕面文化・交流センター（箕面市箕面6丁目3-1）と小野原多世代地域交流センター（箕面市小野原東6丁目15-46）の2箇所で開催。

3. 支援者研修

令和3年10月22日・29日、11月22日、令和4年3月14日：スタッフ研修

令和3年9月16日・12月16日：助産師研修

はんもっくのおうち・オンライン併用で開催。

4. 高校生とのふれあい授業

令和3年7月13日・10月12日・11月30日の計3日

大阪府立箕面東高校（箕面市栗生外院5丁目4番63号）2階総合実習室で開催。

【事業の結果】

柱立て1. 街の実家事業：現地参加

表1に示すように、参加者は参加者は全体として少なく、最終的に1日平均1.2組と目標3組の半分以下であった。後述のように、緊急事態宣言期間は、入場者と時間の制限を行ったが閉鎖はしなかった。スタッフは午前と午後の入れ替わり、助産師も一時期は待機、予防接種後に常駐とした。

参加を呼びかけられない期間が長く、解除後も心理的抑制があり、令和4年には子どもの感染が増えたこともあって、参加者数は増加しなかった。

表1. 開催日数と関わった人数

| 月 | 日数 | 時間数 | スタッフのべ人数 | 助産師のべ人数 | 参加者数(組数) |
|-----|-----|-----|----------|---------|----------|
| 4月 | 16 | 64 | 74 | 18 | 18 |
| 5月 | 15 | 60 | 94 | 14 | 14 |
| 6月 | 18 | 72 | 124 | 17 | 32 |
| 7月 | 16 | 64 | 96 | 14 | 25 |
| 8月 | 14 | 56 | 67 | 12 | 16 |
| 9月 | 17 | 68 | 92 | 14 | 13 |
| 10月 | 18 | 76 | 105 | 17 | 21 |
| 11月 | 16 | 64 | 96 | 12 | 14 |
| 12月 | 16 | 64 | 93 | 14 | 24 |
| 1月 | 14 | 56 | 68 | 9 | 14 |
| 2月 | 16 | 64 | 85 | 16 | 11 |
| 3月 | 17 | 68 | 95 | 18 | 27 |
| 合計 | 193 | 776 | 1089 | 175 | 229 |
| 日平均 | | 4.0 | 5.6 | 0.9 | 1.2 |

振り返ると、令和2年度年度末は緊急事態宣言下でも参加者は多かった(図1)。これは、10月にオープン後口コミで参加者が増え、体験者が繰り返し利用したことと感染第3波までは小児の感染者が少なかったことを反映したと考えられた。3月までの参加者の多くが保育所に入園し、次の0歳児への呼びかけができなかったことが今年度の参加者数低迷につながったと考えられた。

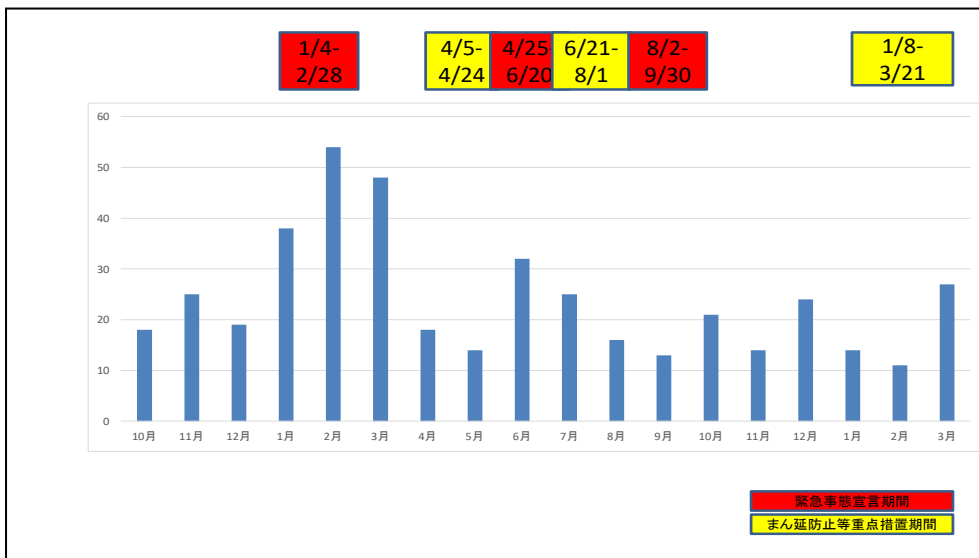


図1. おうち参加者数の推移と新型コロナウイルス感染対策期間

* コロナウイルス感染症への対応

主な感染対策。スタッフも午前午後入れ替え制とした。助産師は訪問などで人との接触があるため、予防接種前は自宅待機とし、早めの接種終了後に復帰した。親子の居場所を完全に閉じることを避け、開催の意図を伝えるため、下記文面をHPに掲載した。

| <h3>コロナ禍への対応</h3> | <h3>はんもっくからのメッセージ コロナ緊急事態宣言を受けて(HP掲載文)</h3> |
|--|--|
| <p>人数制限: 予約とホームページに空き状況を表示 オープンスペース8組→3組など 参加者へ事前に「体調不良の場合お休みください」の連絡</p> <p>時間制限: 午前2時間午後2時間に分け、滞在時間を限定</p> <p>消毒・感染防止: 入室時の手指の消毒・大人はマスク着用 午前午後に分けて、おもちゃの消毒・敷物の入れ替え 適宜空気清浄機を使用</p> <p>換気: 冬期は参加直前・休憩時間に、冬期以外は窓を開ける 毎日18時間以上無人の時間帯</p> | <p>赤ちゃん1対1で長時間過ごすことは、とても大変です。 「はんもっくのおうち」は、他の人と一緒に過ごす機会を作り、みんなが赤ちゃんに関わるのが楽しくなるために活動していますが、緊急事態宣言発令下では目標を絞り、不安やイライラが高まる前の避難場所として開催しています。</p> <p>あなたと赤ちゃんのために、扉を開いている場があると思っただけで、少し和めるかもしれません。 また、あなたと赤ちゃんにとって「今、必要」と思ったら、不要不急ではないので、来てください。</p> <p>感染対策のため、以下をご了承ください。</p> |

* 令和3年度新企画：お誕生日会 1歳&6か月（ハーフバースデー）

1学期に企画を検討し、8月から開始した。定員3組の少人数で丁寧に対応した。参加者は1～3組、手形/足形/写真/ママがスタンプやテープで飾る記念品は喜ばれた。

産師に相談を「まだ首が据わってない赤ちゃんの扱い方」

まるまる抱っこ
(全身を丸く・手足を伸ばさない・ねじらない)

寝かしつけ方と寝床づくり(授乳クッションを利用して)

からだの動かし方を踏まえたあそび
(足裏トントン・自転車こぎ・足首回し・糸まきまき)

写真背景 ↑ →

← ← メニュー

← 飾り付け

かざり

| 月日 | 参加者数 (組数) |
|--------|--------------|
| 8月26日 | 1 |
| 9月30日 | 2 |
| 10月28日 | 3 |
| 11月25日 | 1 |
| 12月23日 | 2 |
| 1月27日 | 0 |
| 2月24日 | 2 |
| 3月24日 | 2 |
| 合計 | 13 |
| 日平均 | 1.6 |

楽しんで企画したが、コロナ禍で出産前から祝事が少なかったことや、きょうだいのいる家庭では手形などを残す機会も少なく非常に喜ばれた。写真撮影では泣くこともあったが、「泣き顔の写真が残るのも大事」のスタッフの声に、納得的一幕もあった。

柱立て1. 街の実家事業：オンライントーク&アドバイス

今年度もオンライントーク&アドバイスを継続して行った。チラシは配布しても参加者は少なかったが、2月以後増加した。経緯は以下で、面識と口コミの力を感した。

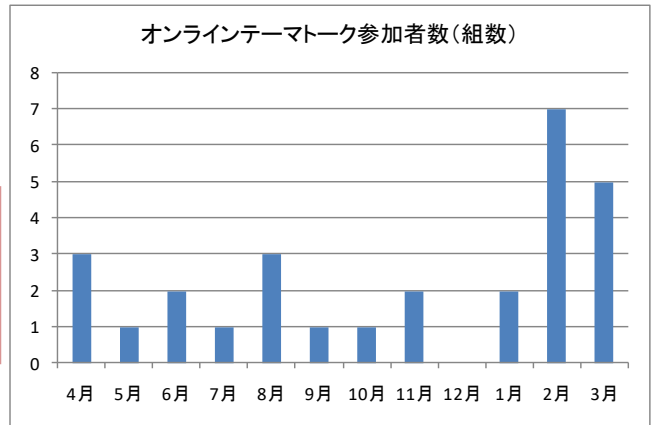
子育て支援センター0歳児企画参加の助産師が案内地域の子育てサロンで代表が勧める



オンラインを利用したママが他のママに紹介

テーマで参加・交通手段が不便な地域のママの継続した参加・ママとパパの参加につながった。

テーマ別参加者数を表に示した。テーマとニーズについては、今後経過を見て適宜検討していきたい。当初は単にテーマで話し合いだけであったが、今年度は最初に5分程度の解説をした後、双方向の相談に応じている。相談内容からは、初めての子育てに頑張る姿や赤ちゃんへの戸惑い、現代の生活様式の中で、児の成長・母体の体調・季節などの変化とどのようにつきあうかなど、リアルタイムの小さな課題がこちらに伝わり、情報提供しながらいっしょに考える機会となった。



| テーマ | 参加者数 |
|--------------|------|
| 授乳・おっぱい | 2 |
| 離乳食・食事 | 3 |
| スキンケア・お風呂/沐浴 | 3 |
| うんち・お尻のケア | 2 |
| 歯・お口のケア | 1 |
| 夏対策 | 1 |
| 夜泣き・睡眠 | 3 |
| 病気・感染対策 | 3 |
| 危険防止と動き対策/体験 | 4 |
| 保育所 | 1 |
| ママのストレス対策 | 5 |
| 総計 | 28 |

←テーマ別の参加者数まとめ
案内チラシ→

↓トークの解説スライド
の一部抜粋

令和3年度 独立行政法人福祉機構 社会福祉課 助産師と小児科医のテーマトーク

各テーマのワンポイントアドバイス&フリートーク。参加費は全く出さず・質問・相談も、遠くでもOK。どこでも気軽に参加ください。

第2・3・4週 火 11:00~11:30

| 月日 | テーマ | 例えば... |
|--------|-----------|----------------------------------|
| 11月9日 | 危険防止対策と体験 | お風呂の湯温調節やお風呂の入り方、お風呂の入り方、お風呂の入り方 |
| 11月16日 | 沐浴・お風呂 | お風呂の入り方、お風呂の入り方、お風呂の入り方 |
| 11月30日 | 夜泣き・睡眠 | 夜泣きの原因、睡眠の環境、お風呂の入り方、お風呂の入り方 |
| 12月14日 | 授乳・おっぱい | 授乳の姿勢、おっぱいのケア、お風呂の入り方、お風呂の入り方 |
| 12月21日 | 夏の対策 | 夏の対策、お風呂の入り方、お風呂の入り方 |

★その他オンライン個別相談：火・木・金10時~15時で当日でもOK
個別相談は、まずお電話ください。TEL: 072-703-4588

助産師 岡山真央、助産師 中井民、小児科医 福井聖子

お申込・お問合せ NPO法人はんちゅう
URL: <https://minoh-hanmock.jp/> (日本語・英語)

ママのストレス対策

ストレスの元は？

- *体の疲れ
- *夫の言動
- *祖父母への気遣い
- *よく泣く子など

| 対策を立てるか、避けて過ごすか | 逆方向に要注意! |
|--|---|
| <p><対策を立てる></p> <ul style="list-style-type: none"> *小さな問題解決 *目標設定を下げる *難しさを認める *無理な自己評価 *自分のできることに取り組む *相談する | <p><避けて過ごす></p> <ul style="list-style-type: none"> *誰かにわかってもらう *気分転換 *機会をはずす *待つ *寛容に受け入れる |
| | <p>*相手への期待感・勝手にレベルを上げる</p> <p>*自己反省・自己嫌悪・劣等感に時間を使わない</p> |

危険防止対策と体験

| 守る | 育てる |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・大きな危険 ・事故防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・危険回避能力 ・自分で考える ・自分で注意する ・チャレンジできる |

赤ちゃんにバリアフリーは不要

| <危険> | <育つ> |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> *尖った物 *硬い床面 *鉛筆や箸を持って歩く | <ul style="list-style-type: none"> *段差に気をつける *段差を乗り越える |

つますいてから、下を見て段差に気づく

柱立て2. 赤ちゃん広場 リンクル

7月以後、市内2箇所で各1時間開催。
内容は赤ちゃん体操とベビーマッサージを
交互に行った(表1)。

自粛期間が解けた時期は、近隣の0歳児
親子の参加があったが、人数を制限していた
こともあり、全体として少人数であった。
2月は子育て支援センターの紹介もあり、
3月にはリピーターやここからおうちや
オンライントークへの参加もあった。

企画も、過去には赤ちゃん対象の内容以外
に手作りおもちゃなど母の工作や助産師などによる講座を行っていたが、コロナ禍以後
は「赤ちゃんのため」に参加する内容に絞って開催している。

| 月 | 日数 | スタッフ のべ人数 | 参加者数 (組数) |
|-----|----|--------------|--------------|
| 7月 | 2 | 5 | 4 |
| 9月 | 2 | 5 | 4 |
| 10月 | 2 | 4 | 0 |
| 11月 | 2 | 4 | 5 |
| 12月 | 1 | 2 | 5 |
| 1月 | 1 | 2 | 0 |
| 2月 | 1 | 2 | 4 |
| 3月 | 2 | 4 | 4 |
| 合計 | 13 | 28 | 26 |
| 日平均 | 1 | 2.2 | 2 |



↑赤ちゃん体操

↓ベビーマッサージ



案内チラシ



- りんくる -

赤ちゃん広場 Linkle

0歳児とその保護者向けプログラム

はんもっくのおうち

第3 木曜 13:30~14:30
赤ちゃん体操

7月15日
9月16日

第4 水曜 13:00~14:00
ベビーマッサージ

7月28日
8月25日
9月22日

会場 はんもっくのおうち 今宮3丁目

第1 金曜 小野原

7月2日 ベビーマッサージ
9月3日 赤ちゃん体操

会場 小野原多世代
交流センター

第3 金曜 みのお
サンプルザ

7月16日 赤ちゃん体操
9月17日 ベビーマッサージ

会場 真面文化交流センター
サンプルザ 1号館2階和室

時間 ①はんもっくのおうち 体操 13:30~ ベビーマッサージ 13:00~
②小野原 10:30~11:30
③サンプルザ 10:30~11:30

料金 500円

定員 ①6組 ②6組 ③10組 きょうだい連れ参加もOK

内容 赤ちゃん体操・ベビーマッサージなどと
ふれあい遊び・おしゃべり質問コーナーなど

※参加人数・換気などに注意して開催しています。
参加ママは、マスク着用の上、体調不良の場合は参加を見合わせてください。
※この活動は、令和3年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の
支援を受けています

柱立て3. 支援者研修

今年度は内部講師による研修を行った。WAM助成による研修は以下で、実践形式は2回に分けて、座学は当日参加以外に録画配信も行い、時間的・場所的制約のあるスタッフの参加が可能となった。

| 月日 | 研修名 | 内容 | 参加者数 |
|--------|--------|------------------------|------|
| 9月16日 | 助産師勉強会 | 愛着形成・母子相互作用 | 4 |
| 10月22日 | スタッフ研修 | 丸抱っこの方法 | 8 |
| 10月29日 | スタッフ研修 | 丸抱っこの方法 | 5 |
| 12月16日 | 助産師研修 | 抱っこ・だっこヒモの使い方 | 5 |
| 11月22日 | スタッフ研修 | ボランティアを考える | 5 |
| 3月14日 | スタッフ研修 | 0歳児の子育て支援に必要な知識・専門職と地域 | 14 |

抱っこの方法：研修時間帯以外でも、適宜助産師さんから指導を受けて試みている。ママやパパと同じ立場でいっしょにやってみるというスタッフの姿勢が、保護者に押し付けることなく学ぶ機会になっていると感じる。



- まるまる抱っこ
(全身を丸く・手足を伸ばさない・ねじらない)
- 寝かしつけ方と寝床づくり(授乳クッションを利用して)
- からだの動かし方を踏まえたあそび
(足裏トントン・自転車こぎ・足首回し・糸まきまき)

3月14日研修内容の抜粋

育ちに重要なことと、家庭環境や親世代の育ちを考えるために時代背景についても説明した。

| | | |
|--|---|---|
| <p style="text-align: center;">本日のプログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援について 2. 産後の環境についての調査報告 3. 子育て環境と社会の変化 4. 赤ちゃんの時期の育ちに大事なこと 5. 出会いを広げるために | <p style="text-align: center;">時間の感覚のすり合わせ</p> <p>現代日本は、時間の効率性を追求する社会</p> <p>授乳の時間が長〜感じる時 苦痛なら、TV・スマホ・本などで苦痛を回避 * 授乳開始時、笑顔を向ける * 最初早め、その後ゆっくり大きく飲む ここまでを感じたら、ちょっとリラックス できるだけ子どもが視界に入るようにしておく 子どもが顔を上げた時に、目を合わせて 笑顔・話しかけを “感じる”力が伸びるように</p> | <p style="text-align: center;">生活環境の変化 (平成9年の調査)</p> <p>左: 野菜の買い物 (1997, 2007, 2017) の推移。右: 家族・親族以外に知っている大人の人数 (1997, 2007, 2017) の推移。</p> |
|--|---|---|

3月14日：研修終了後アンケート

記述意見を記載した。自分事として受け止める意見が多く、良い関係性を築けると期待している。

*私は2人とも里帰り出産だったので、産後の環境としては恵まれていたのかなと思いましたが、それでも産後は本当に大変だった印象が強いので、退院後家に帰ってサポートを得られないママは**どれほど大変だろう**と思いました。何か力になれることが**あれば**したいと思いました。また、「子育ては大変」というイメージが強くなっている現状がある気がするのですが、「**子育ては大変だけど楽しい**」「**大変だけど子どもって本当に可愛い**」というイメージを、**子どもを産む前の世代の人たち（男女ともに）が思える世の中にならない**といけないなと思いました。

*はんもっくの活動やおうちでのプログラムに**どういった意義があるか**を具体的に説明して下さったので、改めてそれを自覚することができました。自分の子が小さい時はあまり深く考えず&考える余裕もなく過ぎてしまいましたが、**どういった事が正しかったか・あまり良くなかったか**を今更ながら**振り返るきっかけにもなった**と思います。

*時代やコロナ禍で人との関わりわりが薄くなり「自分で子育てしないと」となってる方が多いと思います。自分では気づかない**こどものいい所**をみつけてくれたり、これでいいんだ、みんなと一緒に**なんだとも**気づくことができます。少し違うなと感じても、個性でよい点であることもあるし、少し遅いだけで大丈夫なことも多い。「**みんなで考えて色々やってみよう**」は本当に心強いと思います。「**もっと他人に頼っていいんだよ**」を伝えて行きたいなと思います。助産師さんなど専門の方とのつながり 紹介できることはとても良いことだと思います。

*お話を聞き、知らなかった内容を我が子が赤ちゃん、幼児の時にやっておきたかったなと思うと同時に共感し、自分が子供に接してきたことは間違えでは無かったと安堵できる内容でした。そして、私自身、**出産前後に気軽に人と関わる場があったこと**にとっても**いい環境だった**と気づきました。今はお出かけするのも躊躇したり、時間を気にして過ごすことが多いですが、お出かけすること、人とお話をすること、ゆっくり出来る場が増えること**気兼ねなく出来るような環境がまたたくさん増えれば**いいなと思いました。

お家時間に慣れている方もたくさんいらっしゃると思いますが、やはり合って対面で話すことは大事だと思いますし、**何となく話していた内容がふとした瞬間に情報として役に立つ**ことは**ほんとにたくさんあるので、無駄話もムダ**ではない。と改めて思いました。

子供のことを親バカのように人に話すことで**相手に共感してもらって嬉しく感じたり**、怒りすぎたり、言い過ぎたエピソードを人に話すことで自分への戒めや共感を得ることで安心したり、本当に人に自分の感情を話すことは大事だと思いました。

*内容が**今まさに自分が直面している事**だったので、終始前のめりで聞いていました。まずは我が子に実践させてもらいます。とても有難いお話でした。

柱立て 4. 高校生との交流授業

生命を考える授業と社会福祉入門の授業が、前期計4回・後期計4回予定されていたが、緊急事態宣言や校内の新型コロナウイルス感染者出現などにより、親子が参加する交流授業は計3回、スタッフのみ準備1回、4回は中止であった。

| 月日 | スタッフ | 参加人数 | 日替わりプログラム | 保護者から話を聞く |
|------------------|--------------|------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 7月13日 社会福祉入門 | 当団体3 +教諭2 | 参加2組子ども計4 学生8 | 遊び：コマ・魚釣り・パック積木 準備：牛乳パック電車 | 育児で大変なこと・出産のお話 |
| 10月12日 生命を考える | 当団体3 +教諭2 | 参加3組子ども計5 学生8 | 遊び：コマ・魚釣り・パック積木 準備：でんでんだいこ | 育児で大変なこと |
| 11月30日 生命を考える | 当団体3 +教諭2 | 参加1組子ども計3 学生8 | 遊び：クリスマスバッグ作り他 準備：羽子板 | 子育てしていてうれしいこと、 よかったこと |

各回、定番プログラム：1. あひるのダンス 2. 手遊び 3. お名前呼び 4. 親子遊び を行い、次に、日替わりプログラムで2グループに分かれ、①こどもたちとの遊び ②話し合いを行なった。遊びは、事前に学生が作成した手作りおもちゃを使う→場合と子どもたちが学生に手伝ってもらいながら、簡単な工作↓の場合もあった。



↑話し合いでは、育児で大変なこととして「寝る時間が少ない」「自分の時間がない」などの母のリアルな声が聞けたり、「立ち会い出産してほしい？」など、学生への質問もあり、和やかな時間だった。

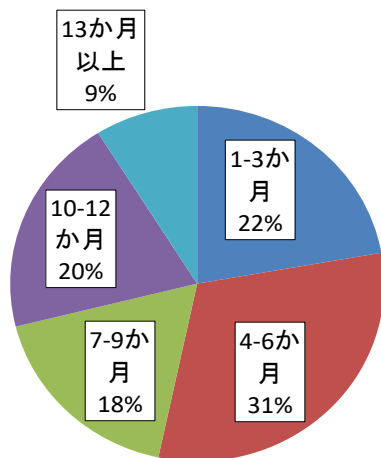
スタッフから：2時間目の工作は次回こられるこどもさんへのおみやげになるので、学生さんは真剣に作成され、毎回ユニークでかわいい物が完成しました。牛乳パックを使用したわんちゃん、コマ、羽子板などを作成しました。どれもこどもたちには大好評でした。



Ⅱ. おうち参加者について

街の実家事業は、本事業の中心的存在であり、今後の継続・発展のために、参加者の傾向を検討した。

参加者は、のべ 145 組、合計 46 組で、きょうだいの参加は 9 組 (19.6%) であった。きょうだい参加のうち 2 組は合わせて 3 名の子どもが参加された。子どもの年齢を限定しきょうだいが参加できない場もあるが、いっしょに来ることができる場として活用されていた。



| 地域 | 参加者数 | 割合 |
|-------|------|------|
| 西南 | 2 | 4% |
| 西 | 5 | 11% |
| 中部 | 11 | 24% |
| 東 | 8 | 17% |
| 小野原 | 10 | 22% |
| 彩都 | 1 | 2% |
| 吹田市近隣 | 2 | 4% |
| 豊中市近隣 | 3 | 7% |
| 茨木市彩都 | 1 | 2% |
| 高槻市 | 1 | 2% |
| 府外 | 1 | 2% |
| 里帰り | 1 | 2% |
| 合計 | 46 | 100% |

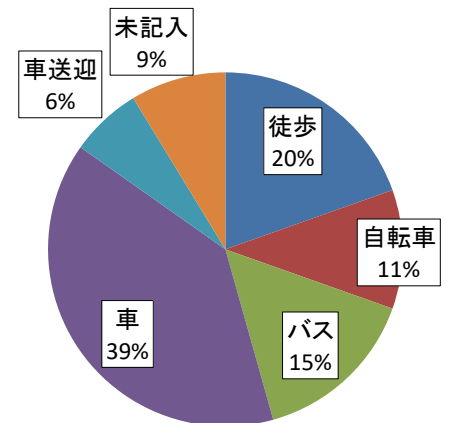


図. 参加者の初回参加時の月齢

表. 参加者の地域

図. 参加者の移動手段

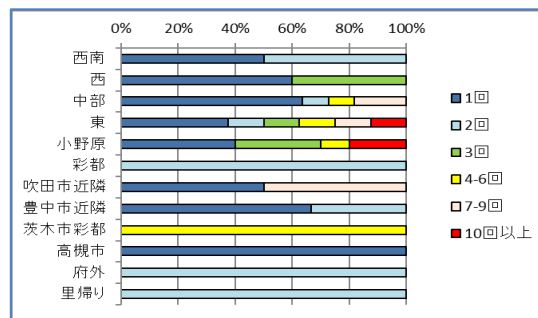
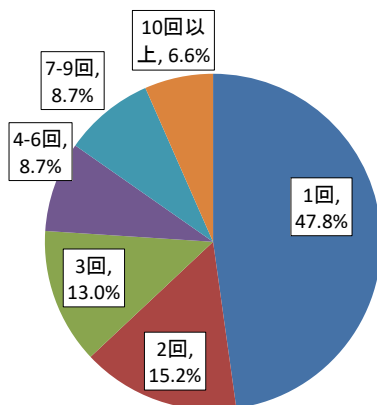


図. 居住地と参加回数

図. 参加回数

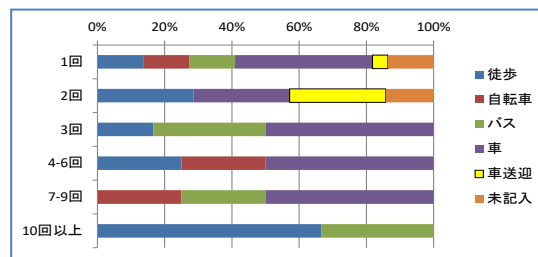


図. 参加回数と移動手段

参加者の初回参加時年齢は 1-3 か月が 2 割、6 か月以下が半分以上だが、その他も月齢もあり、0 歳児全体にニーズがあると考えられた。居住地は近隣がやや多く、移動手段は車が多かった。参加回数は半数以上が複数回で最高は 17 回であった。遠方・車の送迎では回数が少なく、回数が多いのは、近隣・徒歩/車/バスであった。

【おうち参加時「今日の気分」のアンケート】

参加時に行っている「スタッフの参考に今日の気分を教えてください」のアンケート結果では、「おしゃべり」「相談・学び」では、「たくさん」「まあまあ」と前向きな回答が7割を占めた。「あまり」「ゆっくりしたい」は各1名存在した。

「子どもの離れる」については「どちらでも」の回答が65.4%を占め、「とても離れたい」「ずっと一緒」はほぼ同数であった。

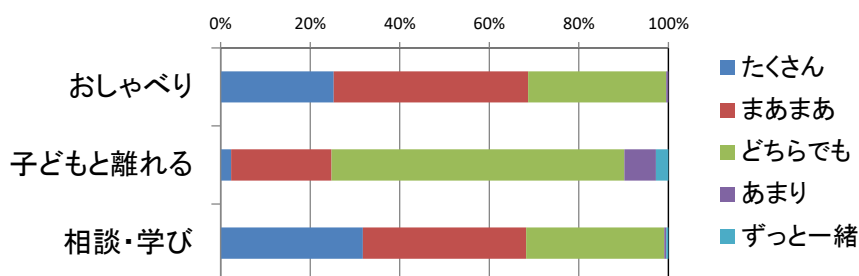


図. 「今日の気分」全体の集計

| おしゃべり | | 子どもと離れる | | 相談・学び | |
|-------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 選択肢 | 回答数 | 選択肢 | 回答数 | 選択肢 | 回答数 |
| たくさん | 54 | とても | 5 | たくさん | 68 |
| まあまあ | 93 | まあまあ | 48 | まあまあ | 78 |
| どちらでも | 66 | どちらでも | 140 | どちらでも | 66 |
| あまり | 1 | あまり | 15 | あまり | 1 |
| | | ずっと一緒 | 6 | ゆっくりしたい | 1 |

表. 「今日の気分」内訳

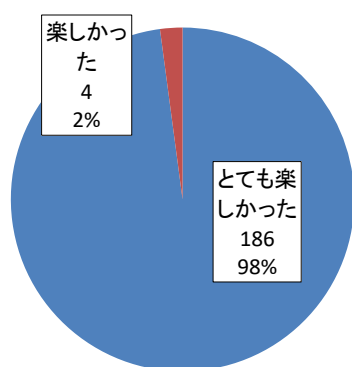
このアンケート結果をスタッフは一応目を通してはいるが、参加者の様子や子どもへの関わり方とチェックの項目とは一定の傾向は感じられず、おうちの居心地は子どもの遊び方に左右される印象が強い。

同じ参加者が繰り返し参加している場合でも、特に大きな変化はなかった。

【参加者への終わりのアンケート結果】

Q. 今日は楽しかったですか？

「あまり楽しくなかった」は0で、「とても楽しかった」が98%を占めた。



終わりのアンケート 記述の内容

<感謝：46名> 以下、抜粋

- *いつも楽しくあそんでいただいて、ありがとうございます
- *コロナでなかなか外に連れ出すことができずあまり人にも会わせることができずにいたので、(今年6月引越しをしてきたこともあり)、たくさんの人とふれあってほしいと思い来させていただきました。育児の情報も気になるのでイベントがあれば参加したいなと思っています。
- *yoga よかったです！体楽になりました。リフレッシュもできました。子どもみてもらえるので、とても助かります。
- *たくさんの方々にかわいがってもらえて良かったです。ふたごにもよいしげきになりました。
- *とても気分転換で来て、いろいろお話も聞けて楽しかったし勉強になりました。
- *のんびりできて、娘もよい刺激になりました。ありがとうございました。
- *はじめての参加でしたが、いろいろとお話をしてくださったり、聞いていただいたり遊びもいろいろ教えてもらい楽しい時間でした。
- *栄養の事、勉強になりました。いろいろモヤモヤしていたことが楽になりました。来て良かったです。
- *気軽にお話しできて楽しく、気持ちも楽になりました
- *子供達もとてもたのしくあそんでいたのでもありがとうございます。はじめて来てとても良かったです。先生もたくさんお話してくださりとてもためになりました。また来たいです
- *積極的に一緒に遊んで下さったので子どもがとても楽しそうで嬉しかったです。出張プログラムがあるといいなと思いました。
- *想像以上にイベントがあって、びっくりしました。ほかに希望はありません。
- *体操楽しかったです。ありがとうございました
- *入園に伴うお話が聞けてとても助かりました。息子と娘も楽しそうに過ごしていました。
- *悩んでいたことが、解決できて良かったです。ありがとうございました。
- *娘も皆さんのおかげで慣れてきました。感謝しております。

<今後の希望：12名> 以下、抜粋

- *母の友達作り/関わりを多くできる会/ママ同士のランチ会/いろんな人と交流 計6名
- *高齢出産した人の会
- *ストレッチとかマッサージ
- *月齢ごとに気をつけるべきことやしてあげることを教えてほしい
- *午後が16時までだと嬉しい
- *お昼食食べて帰れる場所がおうちの中か外にほしい。
- *絵本の読み聞かせや手遊びの会
- *クリスマス会などのイベント
- *他2

Ⅲ. その他 産後～乳児期の子育て支援に関する活動報告

【おうちの見学者】

2021 年度の見学者概要

| 領域 | 人数 | 職種詳細・肩書き等 |
|---------|----|----------------------------|
| 市議会議員 | 1 | 箕政会 |
| 行政 | 5 | 箕面市子ども部すこやか室・保健師・子育て支援センター |
| 地元地域団体 | 4 | 自治会・地区福祉会・民生児童委員 |
| 社会福祉協議会 | 2 | 地域担当者 |
| 医療系 | 4 | 小児科医・助産師 |

今年度はコロナ禍もあり、積極的な見学の呼びかけは行わなかったが、上記の見学者があった。いずれも、家庭的で楽しい雰囲気の評価するコメントが得られた。

【議員研修】

令和 3 年 7 月 20 日（火）14 時～15 時 30 分、箕面市役所委員会室において、箕面市議会議員研修会で「箕面市の現代の子育て事情と展望について」の講演を行った。

箕面市市議会議員 23 名、箕面市議会担当職員数名を対象に、主に乳幼児期の子育て支援の重要性や考え方等について解説し、熱心に聴講された。質問は「愛着形成という言葉が最近よく聞くが、意識しないといけないようになったからか？」「支援の対象として、親か子どもかとなった時にはどちらを優先すべきか？」などがあつた。話としては一定の理解を得られたようで、具体的な政策提言を出すには至らなかったが、今後協力を要請する場合の基盤になる関係性を築く意義はあつた。

【赤ちゃん訪問員研修】

令和 3 年 9 月 22 日（水）14 時～15 時 30 分、豊中市すこやかプラザ多目的室において、豊中市立子育て支援センターほっぺ・共同体ハローベイビーが主催する「こんにちは赤ちゃん訪問研修会」で、「今どきの子育てと関わり方」の演題で研修を行った。参加者は豊中市赤ちゃん訪問員 22 名、民生児童委員 19 名、うち 18 名はオンラインで参加した。

内容は、子育て環境の変化や現代社会の価値観が子育ての価値観と異なることなどの説明と、生後数か月の母子にとって大事なこと、訪問員が最初に関わる地域人材として重要であることなどを解説した。終了後のアンケート結果では、回答数 35 のうち満足 25（71%）、やや満足 8（23%）、記述においても「現代社会で育った親世代にとって子育ての難しさがわかった」「子育てで大事なことに共感した」「訪問に役立つ話であつた」と好評であつた。

【退院後の母子の状況に関するアンケート調査】

令和3年9月1日～11月30日、箕面市内の病院産科2施設と箕面市内と近隣の助産院計2施設に依頼して、産科退院前の母に入力フォームQRコードとURLを記載した用紙を配布し、ネットアンケートを行った。配布数199、回答数43、回収率21.1%
 出産後母子が過ごす場は、自分の家の実家の倍以上多く、2人目以後は8割を占めた。

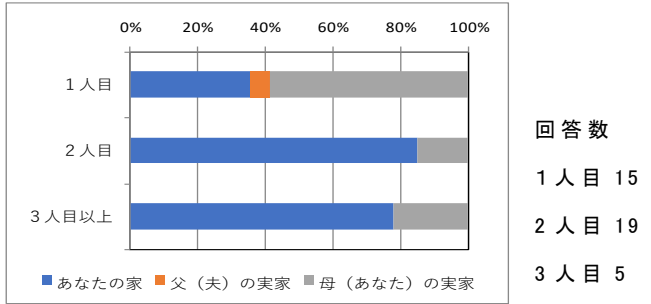
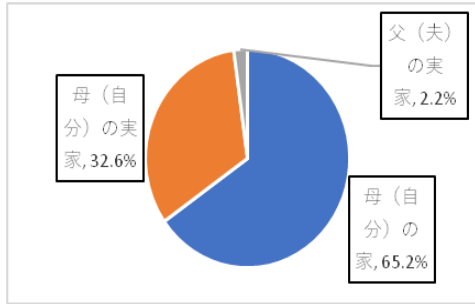


図. 出産後、母子が過ごす場所（複数回答） 図. きょうだいの有無と場所

出産後、赤ちゃんの世話の主な担当者として最も多かったのは夫で55%、次は自分であった。右図のきょうだいの有無とのクロス集計では、親世代のみで対応：60%を占め、実家の親のみは1割程度であった。ここには示さないが、母の世話も夫と実家の親が同程度、困ったときの相談相手も夫と、親世代で担おうとする傾向が認められた。産後の環境については、大半が安心・ほぼ安心と回答したが、不安も少数見られた。

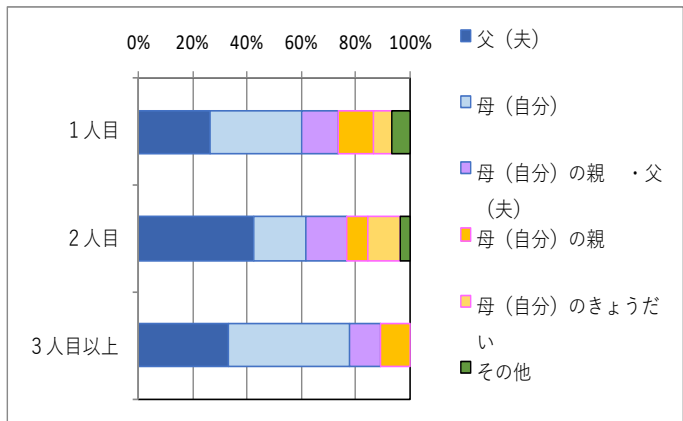
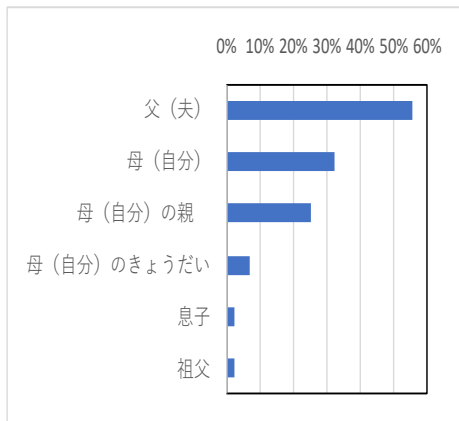


図. 沐浴など赤ちゃんの世話の主な担当者 図. きょうだいの有無と主な担当者

表. 産後の環境の安心感と子どもの人数

| | 安心できる | ほぼ安心と 思う | やや不安 | とても不安 | 総計 |
|-------|-------|-------------|------|-------|----|
| 1人目 | 11 | 2 | 2 | | 15 |
| 2人目 | 9 | 8 | 1 | 1 | 19 |
| 3人目以上 | 5 | 3 | 1 | | 9 |
| 総計 | 25 | 13 | 4 | 1 | 43 |

表. 希望する支援

| | 回答数 | % |
|-----------|-----|-------|
| 新生児訪問 | 21 | 35.0% |
| 産後ケア訪問型 | 10 | 16.7% |
| 産後ケアデイケア型 | 10 | 16.7% |
| 産後ケア宿泊型 | 4 | 6.7% |
| 特になし | 15 | 25.0% |
| n | 43 | 100% |

【赤ちゃんを応援する人集まれ！】

令和4年2月7日・14日（月）14時～15時30分
箕面市内で主に0歳児を対象に子育て支援に関わる人
たちを対象に、講演会を開催した。当初は交流会も
開催する予定であったが、コロナウイルス感染第6波
の影響を考慮し、オンラインで行った。

参加者は、2月7日14名、14日12名

オンライン録画配信7日：12箇所、14日7箇所

民生児童委員・子どもすこやか室保健師・
箕面市社会福祉協議会・箕面市子育て支援センター職員
地域子育て支援団体（にじいろひろば・メリータイム
・めばえ21・はんもっく）・作業療法士など。
配信先は、子どもすこやか室・箕面市社会福祉協議会・
箕面市子育て支援センター・箕面市立病院産科/小児科・
コープこうべ大阪北地区本部・箕面市民活動センター・
市議員・WAMネット他

支援者対象講座と交流会
赤ちゃんを応援する人、集まれ！
医療と保健福祉、公と民の連携を目指して
赤い羽根共同募金 箕面市地域支え合いプロジェクト助成金事業

2022年2月7日・14日(月) 14:00～15:30
箕面市民活動センター＆ZOOM
箕面市成島4-9-23のちゅーもーるWEST1(2階)

7日 【講座】産後の環境についての調査報告
赤ちゃんに、どんな応援がほしい？
講師：福井聖子
(NPOはんもっく代表・小児科医・医学博士)

【交流タイム】 活動紹介と情報交換

14日 【講座】助産師は、どんな支援をしている？
講師：岡山真央（助産師・助産院にじ）
はんもっく助産師チーム

【交流タイム】
つながって、問題解決へ

対象：民生児童委員・赤ちゃん訪問支援員・保健師・子育て支援センター・地域福祉関係者・
産科小児科・地域のボランティア・その他の産児の子育て支援に関心のある方
定員：30名 参加費：無料
要申込：メールまたはホームページより 申込締切：2月4日(金)
Email:hammock_minoh24@yahoo.co.jp
ホームページ:QRコード または、はんもっく箕面→検索

主催 NPO法人はんもっく
TEL:703-5488(火～金 10時～15時)

なお、この企画は、赤い羽根共同募金 箕面市地域支え合いプロジェクト助成金で行った。

【学会発表】

令和3年6月18～20日
第68回日本小児保健協会学術集会
（WEB開催）にて、発表を行った。
表題および共同研究者は、右記の
とおりである。

小児科医と助産師と地域ボランティアの
協働で創る、産後～1歳児の親子の
居場所作りの実践

NPO法人はんもっく¹⁾、ゆい助産院²⁾、
助産院にじ³⁾、丸橋助産院⁴⁾

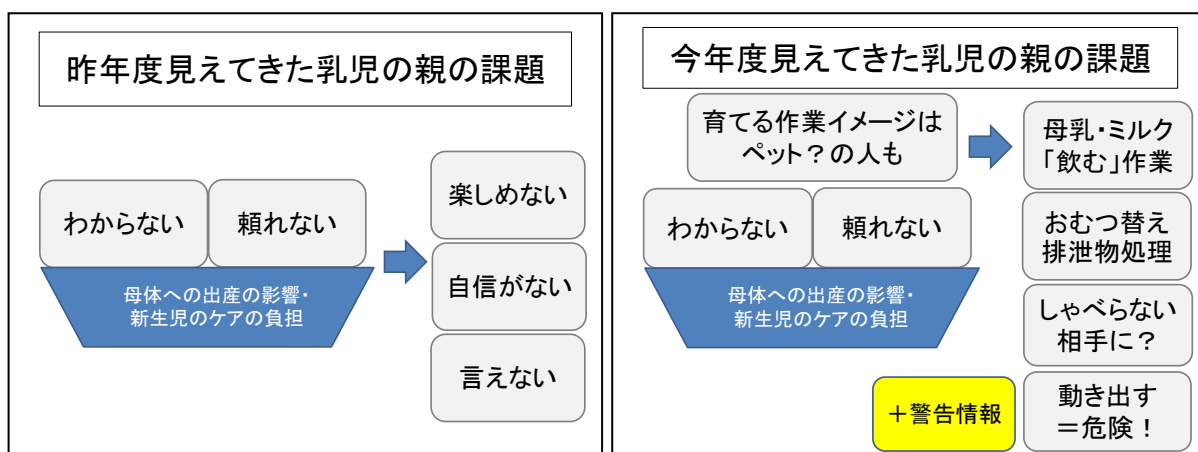
○福井聖子¹⁾、中井 民²⁾、
岡山真央³⁾、丸橋敏江⁴⁾

Ⅳ. 課題がさらに見えてきた

【親や家庭の課題】

令和2年度報告書では、①孤立;物理的・心理的孤立、②リアルな体験よりも情報優先、③乳幼児の発達の楽しさと大事さに対する理解不足、④「就労+子育て」の大変さがイメージできていないことを挙げ、左図の構造があることを示した。

令和3年度は、助産師や保健師から紹介のあった参加者の中に、母の不調と言葉の発達の遅い児、遊び方が幼くおもちゃで遊んだ経験がなさそうな児などが見受けられた。その人に合った支援を検討するには0歳児の子育てで何が大事か、原点を確認する必要に迫られた。また課題に対してどのような支援が必要か、まずは課題から考えてみたい。



1. 乳児の育ちを支える考え方

赤ちゃんを育てるのは、ペットを育てるのと同じとっていた

この言葉を聞いたのは、10年以上前である。ある1歳児の母が「最近子育てがしんどい、0歳の間はそれほど感じていなかった」という時に言われた。この方はその後元気になられたが、この言葉はとても印象的だった。

確かに、ペットに対しても食事や排泄の世話をして、可愛がって言葉をかける。その後数年間、具体的な日常作業において「赤ちゃん」と「ペット」と何が違うのだろうか、私は説明できなかった。この間にTV番組で、ペットを飼っていた経験のある人の方が子育てに肯定的といったフレーズも聞いた。

どこが、何が違うのだろうか？ ペットと同じではいけないのだろうか？

赤ちゃんの世話は、「手のかかる作業」として認識されていないか？

明るい印象のママが、授乳の際声かけもなくいきなり哺乳瓶を口に入れる様子や赤ちゃんの顔を隠して母乳を与えるママ、おむつ替えを「排泄物処理」と記載したアンケートなどを見ると、赤ちゃんの世話は「人扱い」していないと感じられる。赤ちゃんがヒトになるために、関わりを通してヒトを引き出すことが重要で、その大切さを伝えられていないことは大きな課題と考えられる。

2. 応援のない環境・見本はないか、画面の中

他のママが赤ちゃんと過ごす姿を、見たことがなかった

産科に入院の際、個室に入院する人がかなり多いことや退院までの日数が一世代前に比べて短くなっていったところに、コロナ感染対策が加わった。産科医療施設でそれまで進められてきた立ち会い出産・面会・産後の外来や様々なサービスができなくなったことも大きく影響している。

少子化・核家族化のなかで、わが子ができるまで赤ちゃんを抱っこしたことがなかった親は多い。祖父母が高齢であれば感染を怖れて接することができず、働くことができる祖父母は就労中で忙しい、という家庭も多い。北欧のように赤ちゃんの世話がしっかりできるまで家庭で指導してくれる制度もなければ、赤ちゃんをどのように扱えばいいかわからない方が当たり前と言える。

沐浴のやり方は、スマホ動画を見た

中学生の子を持つ男性が、赤ちゃんの時期を振り返って言った言葉である。すでに多くの家庭で動画が学ぶツールになっていると推察される。悪いことではないが、その人のそのやり方がうまくできていて、沐浴させることを楽しめるようにできるのか、動画は指摘してくれない。

3. 子どもは両親が頑張っている・人を頼らない傾向

私たち二人（パパとママ）で、頑張っている

p.14 に示したように、実家を頼らない傾向は強まっていると感じる。誰かを頼ることを当然としない風潮があれば、訴えは出ないで抱え込みにつながる。上記の発言が美談や目標になっていないか、心配される。

4. 関わり方より、気をつけることに関心

〇〇しないために、何に気をつけなければいいですか？

相談では、よくこの質問が出る。情報がどんどん配信される現代では、目の前の児にあれこれ関わりながら単に楽しく過ごすのは至難の技かもしれない。「〇〇に気をつけて」の軽重やふと気になることを語り合う場がないと、赤ちゃんと二人のステイホーム状態において、日々の関心事は注意事項に振り回されるのかもしれない。

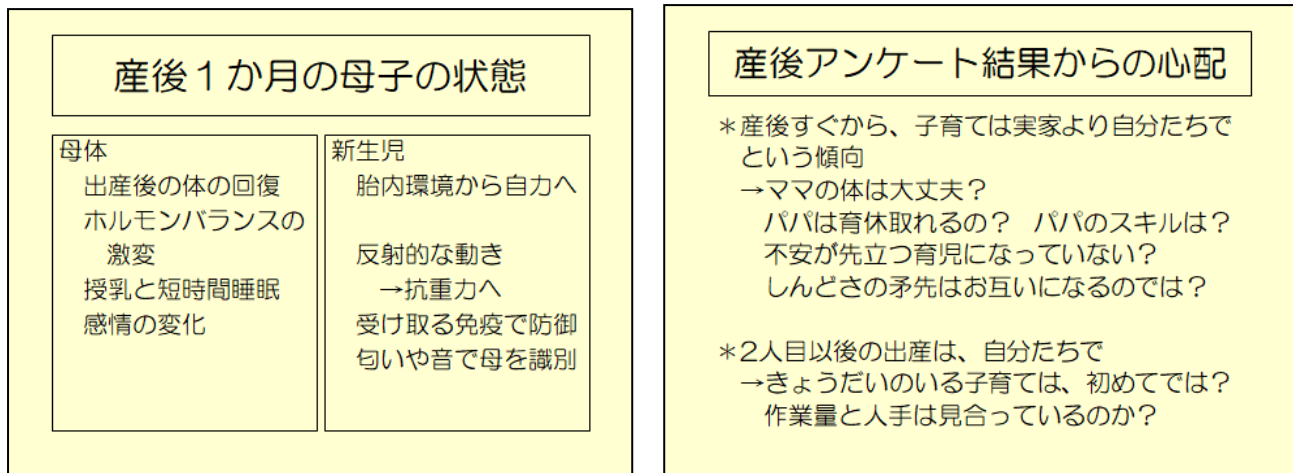
5. 行動できない

人前に出るには、勇気が必要な人もいます。

行ってみたくは思ったけど、行けなかった

【子育て支援の課題】

1. 出産直後の支援の必要性と制度のギャップ



左図に示したように、出産直後～新生児期は、母子ともに多くの支援を必要とする時期である。出産後の母子の大半は医療機関である産科から家庭へと環境が激変し、母子に関わる人も助産師を中心とした医療専門職から家族へと変わる。家族内に子育て経験者がいてマンパワーに余裕があれば、これらの移行は特に問題なく行われるが、核家族化が進んだ現代では多くの家庭で厳しい状況にあると考えられる。今回の産後の状況に関する調査結果では、実家を頼らない傾向が現れていた。

ママは体の回復や変化の受け入れのために支援が必要な状況にあることを考えると、パパや祖母・祖父だけでもマンパワーは足りないという発想が必要である。父親の育休の平均日数が3日という企業が育休取得率の高い優良企業と言われているようでは、到底産後の家庭を支えきれるとは考えられない。

また、2人目3人目の産後は家庭の作業量は多くなり、きょうだいの年齢に応じて家庭の状況は異なるため、「子どものいる家庭への産後支援」として臨機応変な支援策が必要と考えられるが、現状では利用できる手段は限られている。

2. 支援のノウハウの不足

抱っここの方法、何それ？

助産師と小児科医と先輩ママスタッフは、開設前からコミュニケーションは取れていると思っていた。しかし開設後1年経過したある日、泣いている赤ちゃんを助産師が抱っこしてあやした時初めて、「抱っここの方法」に気づくことになった。抱っここの方法論を検討することなく、「赤ちゃんは泣くのが仕事」と納得させたり、「あの人が抱くと泣き止む」と人物に帰してきたことに大いに反省した。

スタッフが授乳の時に困った話をすると、「赤ちゃんのおっぱいの吸わせ方」で変わることを聞いた。母乳育児を十分理解していない小児科医が児の体重を見てミルクを勧める話や、哺乳瓶を好まず保育所入所後体重が減った0歳児の話も聞く。0歳の育児について方法論をもっと検討し共有することが必要である。

3. 専門職同士の話し合いは不足している

わたしたち助産師のことって、知られていない・・・

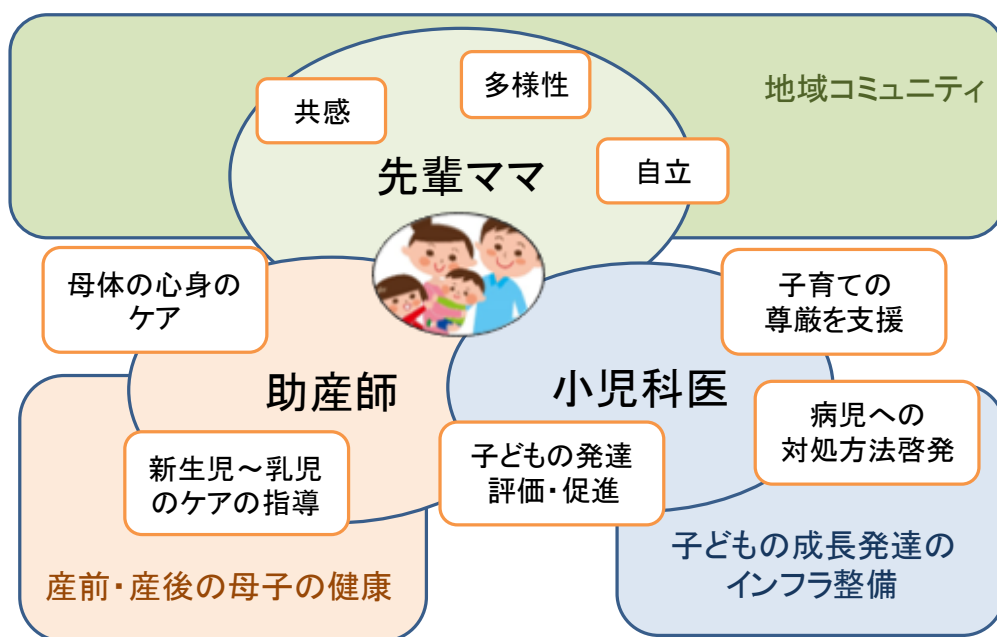
小児科医と助産師のつながりは多くないため、2の抱っこの話も共有できていなかった。母乳育児に関心が低い小児科医はその分野の学会や研修会に参加しないため、最新の知識は入らず、話題にしなければ「知らない」こともわからない。

専門職の中でわかりあえることを、他の専門職や一般に伝える必要性や機会がないと伝わらないのは当然と言える。子育ては対象が幅広く、成長とともに要求されることが異なり、関わる専門職も変化する。専門職が子育て支援に関わるには、同じ専門職同士や同じ職場で働く者同士ではなく、どこの場でも理解される程度に、自分たちに何ができて、どのようにつなげてほしいのかを発信することも必要と考えられた。

4. 地域人材の活用

ここは、なぜこんなに人がいるの？

おうちの参加者からの質問に、スタッフはどう答えていいか困ったようだった。赤ちゃんが安心して過ごし成長するためには、基地であるママやパパとともに多くの人からの働きかけがとても重要だが、その認識がほとんど無くなっていると感じる。保育所の人員配置が貧しいという指摘もあるが、家庭でも赤ちゃん1人に大人は1人でいいと思われているのではないだろうか。大家族や共同作業の多い昭和初期までの暮らし方が昭和・平成を経て家族構成は激変した。赤ちゃんを育てるために不適な状況を脱するには、適する状況をどう作るのかという発想がいる。子どもが育つ地域のコミュニティには、多くのフツーの人の関わりが必要である。



V. 子どもを育てるために確認したい大事なこと

山積する課題に取り組む際、支援の姿勢がブレないように原点を確認しておきたい。

1. 赤ちゃんから、ヒトへ

生まれた時から、大人が丁寧に関わることによって、赤ちゃんは子どもへと成長し、次のようなことができるようになると言われてている*。

*子どもは、考えたり、理解することができるようになる。

*ほかの人と仲よくし、その人たちを好きになり、信頼するようになる。

*感情も発達する。自分に対して自信をもち、他の人を愛したり、気かけたりするようになる。

*出典：完璧な親なんていない！ ジャニス・ウッド・キャタノ著 三沢直子監修

2. 子育てスタート期の0～4か月児の育ちに、知っておきたいこと

① 母乳は母子関係の相互作用

胎児の時期は母体の中にいるが、生後の授乳期も母子相互の関係性のなかで、心身が成長する。母子ともに支援が大事である。

新生児は夜も数時間毎に授乳が必要だが、母乳を作るホルモンは夜に多く産生され、赤ちゃんが回数多く飲むことで分泌が刺激され、母乳は出やすくなる。1日何回も授乳することによって、母体も赤ちゃんの飲み方もだんだんじょうずになり、安定する。赤ちゃんのペースにママが合わせるようなホルモンの調節が働く。

ママもお昼寝
この時期の
ママの睡眠は
赤ちゃんと同調し、
短期熟睡型に

② 見えるようになってくる

視力は、生後3か月で0.01-0.02、生後6か月で0.04-0.08、1歳で0.2-0.25
遠視で弱視、近見視力から発達する。赤ちゃんは、まだよく見えないが、見ようとしていて、すぐ近くから、人の目から見始める

→授乳・おむつ替えの時に、顔を赤ちゃんに近づけ、笑顔を見せよう

3. 生活リズム・日内変動の獲得

体内時計は、24.5時間周期のため、朝の光でリセットするといわれる。

生後1か月くらいから動き始め、上手に練習できると3～4か月までに昼夜の区別がつき、6か月には安定した睡眠リズムになるとされるが、個人差が大きい。

睡眠には睡眠ホルモン：メラトニンの影響が大きい。

メラトニンは明るい光を浴びて脳内で作られ、約14時間後、夜暗い時分泌される。

夜型生活による夜泣きタイプは、体内時計の混乱で、全体に睡眠が浅く、昼寝もうまく眠れず、長く続くと言われる。 →朝は早めに起こそう

4. 愛着形成・人への基本的信頼感は、心の発達の基礎

泣き叫ぶ、微笑む、しがみつく、発声するといった生得的行動によって母親を自分に引き寄せ、母親と接触していることにより、安全を確保する。
これらの行動が基になり、母と子の「愛着」が形成されると提唱されている。

5. 言葉・会話への遠い道

赤ちゃんは自分から言葉を話さないが、話しかけるのは、ムダではない。
言葉を話すには、話しかけをマネる・発声に応じることから始まっている。

6. 口の機能の発達は、今後の食事・言葉の発達につながる

2か月 指・おもちゃしゃぶり

いろいろな食べ物が口の中に入っても異物と感じないための準備

3-4か月 拒否できる 量の調節 呼びかけに応じて声を出す

5-6か月 哺乳反射の消失 捕食の準備 口を閉じた嚥下 マ、パ、バ等の音声

7. 体を動かそう 腹ばいにしてみる

腹ばいの効果：首や頭を持ち上げる・運動になる・腹部への刺激・見え方が違う
→顔を見て話しかけよう。嫌がって泣くことも大事 訴える→抱っこも大事

8. おもちゃも働きかけが必要

おもちゃは目の前で少し長い時間見せる・手に持たせる・音を出してみせる
動き出しそうになったら、好きなおもちゃを少し離れたところに置く

7. きょうだいのいる赤ちゃんについて

*2人目の産後、きょうだいの子育ては、初心者

*上の子には、気持ちも大事だが、対策も大事

*上の子が急に大きく見えるが、「良い子」を求めすぎない

*上の子が可愛く思えないことに、自責の念を持たないが、子どもにぶつけない

*赤ちゃんにかける手間暇、最低限必要なことは押さえておこう！

Ⅵ. 今年度目標にしていた達成課題と成果物

＜助産師＆小児科医 産科領域の支援の充実のために＞

1. 産科退院時の子育て力・環境の目標作成

子育て力については、産科アンケートで「〇〇は、できると思うか？」という質問を行ったが、自己申告で「できると思う」が多く、評価方法には再検討が必要とわかるにとどまった。産科退院時のチェックリストも作成を考えていたが、コロナウイルス感染対策に追われる産科医院に新たな要望は無理と考えられ、着手しなかった。

2. 産後ケア・相談のノウハウ集作成

下記項目について、整理した。

①授乳におけるトラブル

飲みすぎ・授乳量の考え方/指導・乳腺炎など・卒乳について

②スキンケア

③抱っこ・寝かしつけ・遊び

④きょうだいについて

＜小児科医として、頼れる小児科医のために＞

3. 乳児の発達評価と関わり方指導案作成

発達チェック・日常的な関わりの指導と相談のノウハウをファイルに整理した。

4. 0～1歳児入園に関する調査は、大阪小児科医会で検討を依頼する予定だったが、新型コロナウイルス感染で小児科医が多忙となったため、提案できなかった。園医を務める保育所での子育て状況や保護者指導の状況観察を行い、今後の検討課題とした。

＜スタッフ＆小児科医→生活環境支援の情報提供のために＞

5. 保育所以外の子育て応援手段リスト

訪問型支援のリスト作成を行ない、表にまとめた。ホームページ掲載予定。

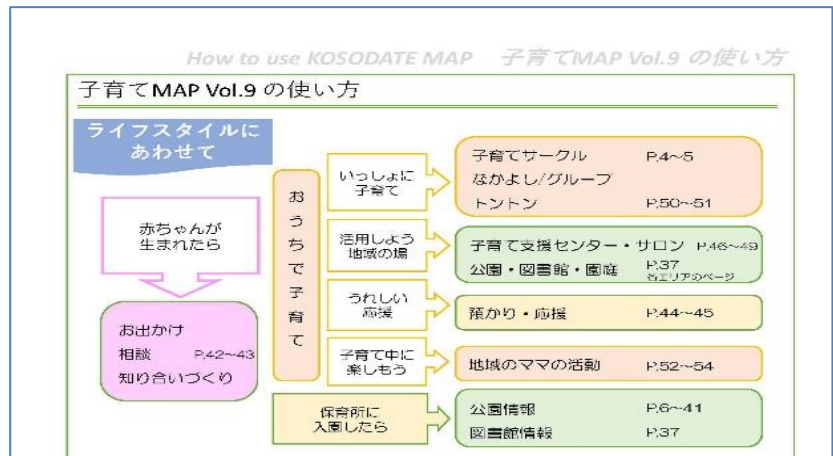
| | 企業・団体・サービス名 | 営利・非営利 | 内容 | | | | 金額 チャイルドケア 平日基本料金 | 申込 | 事前準備 | 連絡先 | 対象地域 |
|---|-----------------------------|--------|-----------|----------|----------|----|-------------------------|--------------------------|-------------------------------|---|-----------------------|
| | | | 預かり 保育 | 病児保 育 | 家事代 行 | 産後 | | | | | |
| 1 | ファミリー・サポート・センター | 非営利 | ○ | × | × | △ | 700円/時間 | センターに電話 依頼 | 登録・面談要 | https://www.city.minoh.lg.jp/quen/family.html | 箕面市 |
| 2 | ふれあいホームサービス (箕面市社会福祉協議会) | 非営利 | △ | × | ○ | △ | 30分まで500円、 1時間まで900円 | 電話 | コーディネーターが 訪問or来所 | | 箕面市 |
| 3 | コープむつみ会 | 非営利 | × | × | ○ | △ | 家事援助：500円 /30分 | 電話 | 会員登録要 | | 北摂 |
| 4 | フレアワークス | 営利 | ○ | ○ | ○ | ○ | 2,100円/時間 | 電話、FAX、 HP、Eメール | HPの資料申込・ 書類返送 | | 大阪府・ 兵庫県・ 東京23区 |
| 5 | くれどる | 営利 | ○ | ○ | ○ | ○ | 2,000円/時間 | 電話依頼 | 電話→入会訪問 | | 大阪府・ 兵庫県・ 奈良県 |
| 6 | ママMATE | 営利 | ○ | 要相談 | ○ | ○ | 2,420円/時間 | ホームページ・ FAX・郵送で登 録 | 電話・必要があれば 事前打ち合わせ | | 関西・ 関東 |
| 7 | マザーネット | 営利 | ○ | ○ | ○ | ○ | 2,623円/時間 | 電話・メール・ FAXにて依頼 | WEB入会申込 ・書類を返送 ・事前面談は有料 | | 関東・関 西・長 野・福岡 |

6. 在宅・就労：両者の利点と工夫の情報提供

今年度改訂した子育てMAP みのお Vol.9（2021年度版）56ページの中に就労（保育所入所）児と在宅児への案内を記載し、それぞれの活用を呼びかけた。



1500部作成



7. 当団体の課題解決への取組

① 発信力不足に対して

コロナ禍では、集いの開催には制限が多く、積極的な呼びかけは行わなかった。オンラインや個別相談は、チラシ配布やホームページ以外に、子育て支援センターでの企画を通じて保護者に案内した。

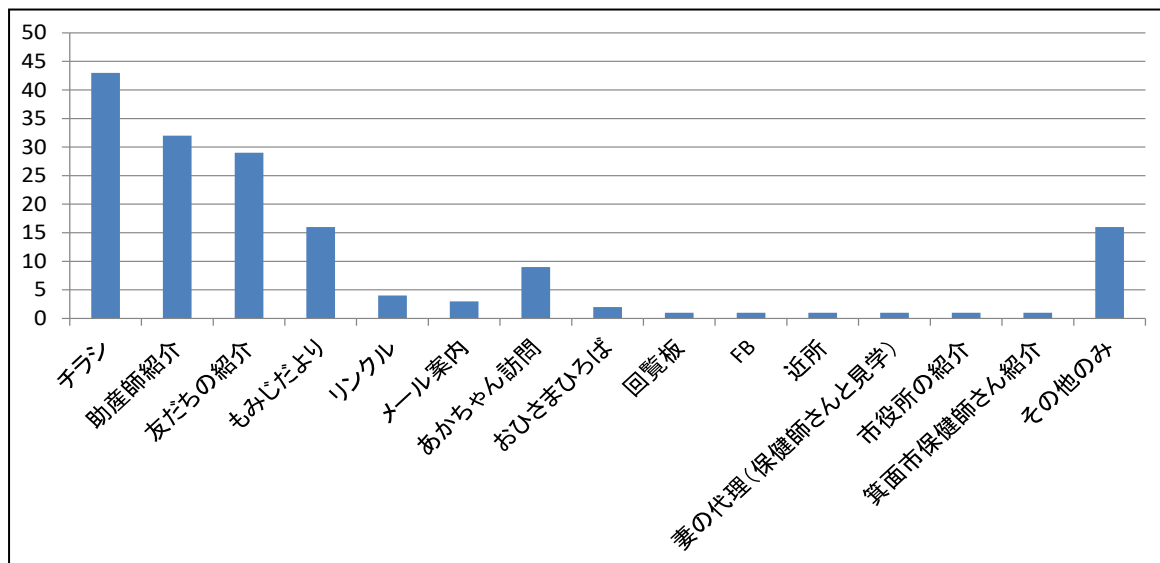
箕面市役所子ども部すこやか室からは、保健師同伴で2組が参加された。

地域自治体から回覧板で案内を行ない、自治体パンフレットに記事も掲載された。

社会福祉協議会の配布物に、案内が掲載された。

参加者アンケート結果からは、今年度はチラシ配布・紹介が有効であった。

Q.はんもっくのおうちはどこで知りましたか？



②事業継続への資金の安定性について

箕面市子ども部すこやか室に、令和4年度から産後ケア事業を申請し、委託を受けることとなった。産後ケア事業のみでは、資金面で不足するため、有料メニューを整理し、有料メニューの案内を積極的に行うこととした。

③社会問題解決への戦略不足に対して

はんもっくのおうちの活動を通して、乳児期からの子育て支援団体という認識は市内に広まった印象がある。

産後アンケートで、箕面市立病院・箕面市内の産科医院、箕面市内と近隣の助産院の協力や、箕面市教育委員会と箕面市医師会の後援を得る過程で、団体の周知は進んだ。

子育て支援センターも0歳児への関心は高く、0歳児対象の企画で助産師の協力依頼があり、専門職同士の連携が進んだ。

箕面市社会福祉協議会の協力を得て行った「赤ちゃんを応援する人集まれ」では、民生児童委員や地区福祉会、地域子育て支援団体の参加があり、オンライン開催で録画配信も含めて、趣旨の共有化を図ることができた。

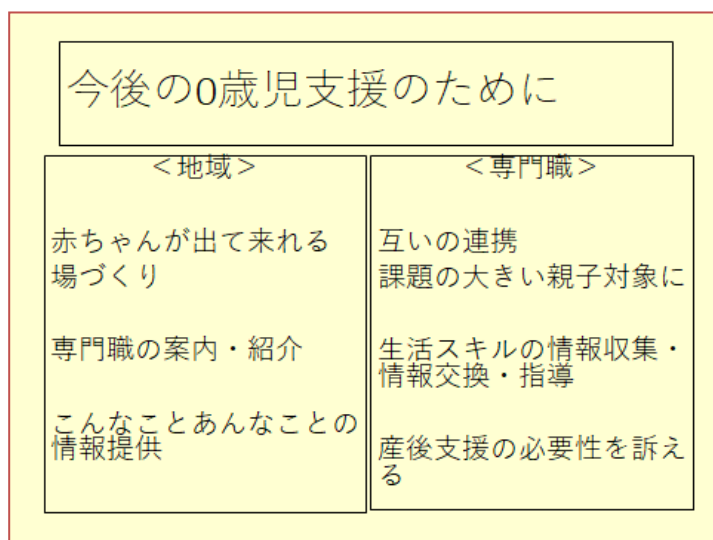
コープこうべ北大阪地区本部とは、幼児対象の子育て広場で従来より連携があったが、0歳児支援の面でも協力関係が得られるよう話が進んでいる。

箕面市議会議員2名(維新の会1名・箕政会/議長1名)とラインで連絡ができるため、活動について発信は重ねている。

Ⅶ. 次年度に向けて

右図に示すように、箕面市内全域を考えれば、当団体だけでは力不足であり、他の支援団体の活動案内やできれば出前講座などを行うなどの連携を行っていききたい。

保護者に対する情報提供は、NPOの立場を活かして、ベビーシッターなどの民間企業の案内も含めて、柔軟に行ない、得た情報を他の団体とも共有していききたい。



1年で子どもが成長し、次々に入れ替わる0歳児の保護者や周囲の人に、箕面市内の様々な0歳児対象の活動について案内し、「人を頼る」ことの抵抗感を減らしていく。これらの考えに基づいて、以下の活動を計画する。

1. おうちの充実・発展

* 参加者の居心地の良さを常に検討し、研修で共有を図る。

* 箕面市では第1子より第2子以後の出産の方が多かったため、きょうだいも参加できることを強く発信。

幼児対象の活動の際、妊婦さんに積極的に案内する。

保育所で案内を出し、第2子出産育休中の参加者増加を目指す。

* 乳児期早期の親子の参加を促すため、月齢を区切った「赤ちゃんレッスン」を5月から開始する。

* 赤ちゃんレッスンなどの機会を通して、親子関係を育む支援のあり方を検討する。

* 赤ちゃん体操・お誕生日会・リサイクルなどのスタッフ企画の担当を増やす。

* 離乳食講座を積極的に案内する。

コロナ感染対策が落ち着き、飲食が可能となれば、栄養士を中心として食事の実践指導も行いたい。

子育てが楽しくなるための 赤ちゃんの育児レッスン 〈2～4か月児コース〉

第2木曜午前 10時15分～11時45分 3回シリーズ

プログラム

* 身体計測・発育チェック

* トークタイム : ○○記念日を教えてね

* 小児科医といっしょに、見よう、知ろう

① 発達：感動ポイントを見よう

② 子どもに合わせた、今ハマりそうな遊びや関わり方

* 簡単ストレッチ&お顔の体操

* 日替わり、専門職タイム

1 週目：助産師から

「ママも赤ちゃんも、リラックス抱っこねんね」

2 週目：助産師から

「散歩・お出かけをもっと楽しく、疲れないように
おまけに、ちょっとしたことで発達に効果的」

3 週目 栄養士から

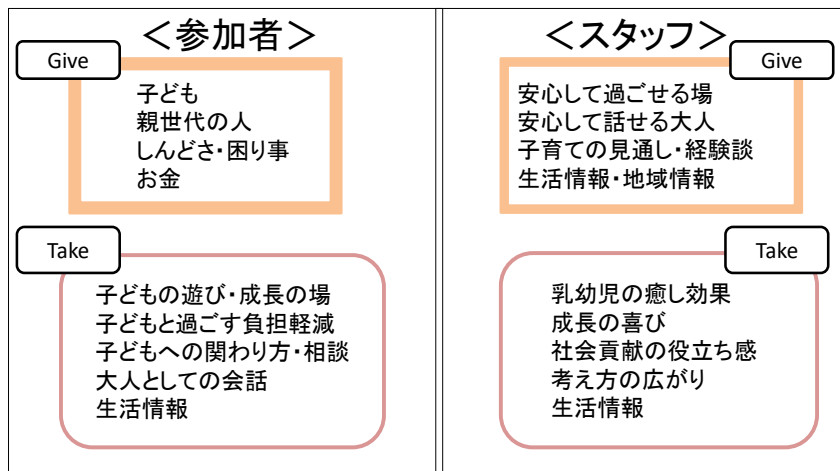
「構えなくて大丈夫、離乳食について知っておこう」

* ママのおしゃべりタイム

ストレス解消&赤ちゃんへの話かけ↑に

2. おうちの事業の発信や展開

先輩ママスタッフと専門職と一緒に支援する活動は、あまり多くないが、スタッフと参加者の関係性が、リラックスした場の雰囲気を作っている。下記は昨年度整理した図で、このお互い様感の意義を発信していきたい。



地域人材と専門職の連携がうまくいく要因を検討して、他に伝えられるように形にしたい。

3. 助産師&小児科医連携を活用

*産後ケア・相談のノウハウ集

書籍にできないか、検討する。

4. (一社)大阪小児科医会への展開

*生後2か月児・4か月児・6か月児の育児支援の冊子作成を目指す

赤ちゃんレッスンで実践したノウハウや、助産師との連携などを盛り込んだ冊子作成を依頼する。会員数は約700名で、小児科医の協力が得られることは大きな力となる。

0歳児から入園する場合の授乳の問題や、病気やケガへの対応の啓発などについてもできれば検討を依頼したい。

5. 社会福祉協議会との連携

社会福祉協議会を通じて、地区福祉会子育てサロン担当者や民生児童委員との連携を図ることができる。令和3年度に中止となった0歳児支援者の交流会を開催し、活動内容の情報交換、参加者の紹介などを行えるようにしたい。

6. 箕面市との連携

令和4年4月から、産後ケア事業を申請し、状況に応じて5月開始を検討している。きょうだいの預かりも可能であることが期待されている。産後ケアの参加状況が落ち着けば、赤ちゃんの一時保育も検討する。

子育て支援センターとの連携：令和3年度から0歳児企画に助産師が参加し、連携が進んだ。令和4年度もさらに交流を深めたい。

7. 赤ちゃん、集まれ！（仮称：赤ちゃんフェスタ）

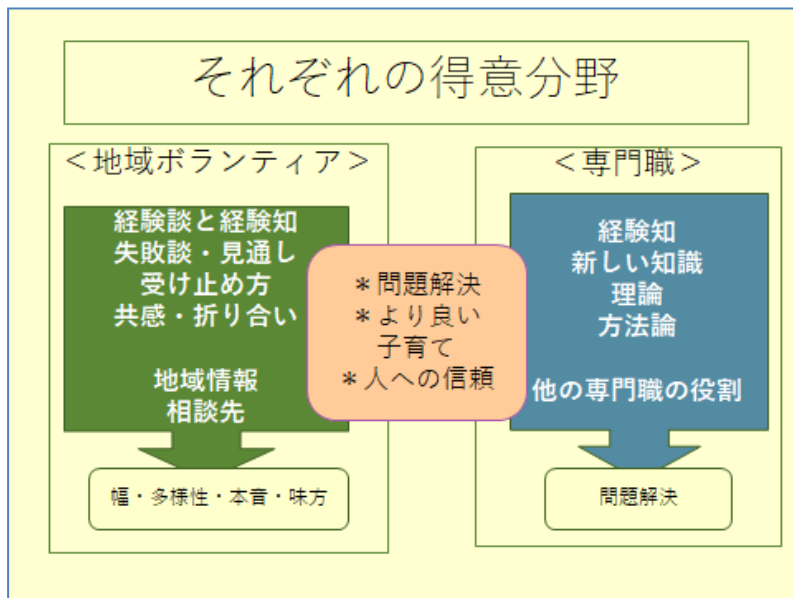
箕面市内の0歳児対象の活動紹介・プチ講座・音楽企画などの複合イベントを開催し赤ちゃんと一緒に出かけることへの前向きなメッセージを市内全体に広報したい。

おわりに

現代の日本の社会は、簡単・便利・効率性やスピードを重視している。今の社会はより良い社会を目指して築きあげた結果であり、多くの人々は過去に比べ快適な生活を過ごしている。しかし、このような考え方に基づく生活環境が、子育てに合わないことはあまり知られていない。子どもの成長には10～20年の歳月が必要であり、人を信頼し助け合い自立した考え方を持つ大人を育てるには、人との関わりや様々な体験が必要である。生活が不便であれば、手や体を使い、失敗し、考えて工夫することが自然に獲得されただろう。便利とは手間をかけないことであり、学びの場が家庭にある子どもにとって、日常生活で動き考える作業は激減し、人と出会う機会も縮小した。今の社会の中に、子どもが育つ環境を創ることが必要で、手間をかけることや人と関わることを楽しめる工夫が求められている。

近年消費者意識が浸透し、できるだけコストや労力をかけずに良い物入手したいという考え方が強くなった。ともすれば子育ても、できるだけ人手にかかるコストを削減し、簡単で手間を省いてできる方法で育てたいといった風潮を感じることもある。しかし、子育てや教育は消費行動ではなく、未来を育てる創造的行動である。人を育てる行為は、未来社会に向けて人も時間もお金も投資する価値があると広く認識されることを願っている。

赤ちゃんへの関わり方には、人を通じて、学ぶことが必要という考え方を広報し、赤ちゃんに関わることは楽しく意義のあることという認識を社会で共有したい。今ある地域と専門職の連携が、図のような役割分担で、母子を支える環境整備ができるようにこれからも励んでいきたい。



2022年（令和4年）3月30日
NPO法人はんもっく
代表福井聖子

作成：2022年3月

編集：NPO法人 はんもっく

<https://minoh-hammock.jimdo.com>

問い合わせ：E-mail:hammock_minoh24@yahoo.co.jp

